

3歳児 実践事例

クリスマスごっこをしよう！

(12月)

観点 (人とのかかわり)

視点 (協同性

～たのしいな～)

【遊びの経過】

日々の遊びの中で、身近な体験からイメージを膨らませてごっこ遊びを楽しむ様子が見られている。12月に入り、クリスマスの期待も高まっている中、クリスマスの歌を歌ったり、絵本を読んだりしていくことでクリスマスという同じイメージをもちながら遊ぶことができるようになってきた。

【ねらい】

友だちや保育者とクリスマスのイメージを共有し、それぞれの思いを出しながらかかわりあって遊ぶことを楽しむ。

○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助

★クリスマスごっこの共通のイメージをもち、遊びを広げていけるように、これまで読み聞かせたクリスマスの絵本の掲示コーナーを作り、いつでも手に取れるようにしておく。

★それぞれのコーナーに必要な道具や材料を準備しておく。(空き箱、包装紙、カップ、ドングリ…)

○自ら選んだコーナーや、やりたい役でクリスマスごっこを楽しむ。

<サンタのおうちプレゼント作り>

プレゼントができたら袋に入れて届けよう。

【意欲】【楽しさ】



寝て待っている友だちにプレゼントを作るぞ。

【意欲】【提案】

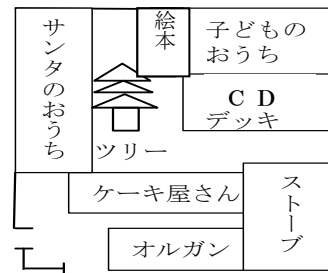
先生、できたよ。

【自己発揮】【自信】

どうやって巻こうかな。

【相談】【疑問】【思考】

★それぞれのコーナーを設定



ケーキが売り切れたから、もっと作らないと。

【意欲】【気付き】

<ケーキ屋さん>



ケーキができたら、ケーキ屋さんをしよう。

【見通し】【期待】

私は、いちごケーキを作ろう。

【意欲】

この上に、どングりを飾ろうよ。

【提案】【自己発揮】

〇〇ちゃんたちが寝ているから、一緒にプレゼントを届けよう。

【期待】【人とのかかわり】【共通の目的】



プレゼント、喜んでくれるかな。

【探究心】【期待】

寝ている友だちを起こさないように、そっと届けよう。

【思いやり】【提案】

<サンタに変身>

■教師が、一人ひとりの言葉を丁寧に聞き、思いを伝え合いながら遊ぶことの楽しさを感じられるようにする。

■子どもたちが役になりきって言葉を交わす様子に共感し、友だちとやりとりする楽しさを感じられるよう必要に応じて輪に加わる。

■子どもたちが夢中になって遊んでいる姿を認め、周りの子どもたちにも紹介していくことで、友だちの遊びにも目を向けられるようにしていく。

【評価】

・やりたい遊びや遊びたい場を見つけて、思いを伝え合いながら、友だちと相談して遊ぶことを楽しんでいる。